

つきたい力

- ・言語能力、情報活用能力、課題発見・解決能力。
- ・図書館活用を通して、推論する力や見通す力、これまで経験したことのない状況にも対応できるよう「学び方を学ぶ」ことを通して、「生きる力」を育む。

取組みの概要・ポイント

- ・学校図書館を基盤に他教科で学んだ内容と関連づけ、身につけた知識を活用して学びを深める教科等横断的な視点での授業づくり。
- ・学校図書館とICTを活用した学習活動を通して、言語能力を鍛え、思考を広げ、生涯にわたって学習し続ける子どもの育成。

具体的な取組みの内容

学校図書館を活用した授業づくり

学校図書館の機能強化

- ・いつでも授業が行えるように机の配置を工夫、ホワイトボードや投影できるテレビを設置。



授業を行える
学校図書館



- ・受験生向けの本や各教科の家庭学習に役立つ「学習コーナー」、授業で使った本や話題の本を集めた「特設コーナー」、給食時間に紹介した本やクイズに関する本の展示。

学習コーナー

特設コーナー

授業に関する本



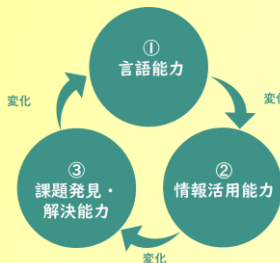
- ・様々な角度から課題解決にアプローチできるような本や、イラスト・写真でやさしく解説している本から論文まで、個別最適な学びにつながる幅広い資料を提供した。内容が難しい本には、ヒントとなるページにふせんを貼って提供し、生徒の課題解決へのサポートを行った。

- ・令和6年度改訂版「六中校区情報活用能力系統表」を作成。
※教科書、「大阪府情報活用能力ステップシート」に対応。



教科等横断的な視点での授業づくり

- ・4月の校内研修で図書館活用の共通認識を図り、教科担当として、学年担当として、様々な視点で全教員で年間指導計画を見直し、図書館活用を通して言語能力、情報活用能力、課題発見・解決能力を育み、学力向上を図った。



- ・教科等横断的な学習の視点に立って、学校図書館を基盤に他教科で学んだ内容と関連づけ、身につけた知識を活用して学びを深めることができた。

図書館を基盤として教科等横断的な学習

社会科
(地理)

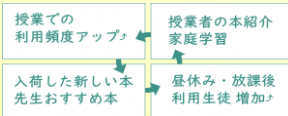
図書館
共通ツール

家庭科
(日本の伝統文化 和服)

- ・家庭科の授業で、様々な角度から書かれた本を活用することで、社会科の知識を生かし、多面的・多角的な見方・考え方が育まれ、学びを深めることができた。

本に親しむ場づくり

- ・すべての教科で積極的に学校図書館を利活用したことで、生徒が学校図書館に来る機会が増え、生徒アンケートでは、「昨年度より読書習慣が向上した」の項目で肯定的回答が65%となり、読書率も向上した。



- ・学校司書、地域の学校教育サポーターが学校図書館運営に関わり、授業日数に対する図書館の開館率を100%にした。



- ・委員会や学校司書と連携しておすめの本に紹介文をつけ、「面出し」をするなど、本の展示の工夫を行った。

- ・学習委員が作成した本を活用したクイズの放送、給食の「ものがたり献立」の原作を保健給食委員が給食の時間に朗読し、食育の関心を高める活動を行った。

- ・「名作と音楽を楽しむ会」と題した朗読会で図書委員による名作の朗読、吹奏楽部による演奏、美術部によるしおりのプレゼントなど、本の魅力を発信する取組みを行った。



吹奏楽部

図書委員

美術部
オリジナルしおり



取組みを通しての子どもの変容

- ・昼休みと放課後に加え、生徒の居場所づくりの一環として火曜日の終日を開館したこと、朗読会の実施、授業に関する本や受験向けの学習コーナーの設置などで、学校図書館を安心できる居場所として、読書・学習の場として利用する生徒が昨年度よりさらに増加した。利用者数…昨年度(11月末)約4800人 → 今年度(11月末)約5600人
- ・昨年度より貸出冊数が増加した。生徒一人あたりの貸出冊数…昨年度(11月末)8.1冊 → 今年度(11月末)9.5冊。生徒一人ひとりの読書率が向上した。

図書館の貸出冊数…昨年度(11月末)約4900冊 → 今年度(11月末)約5700冊